

地域と連携・協働した高等学校教育の充実について

令和5年6月5日（月）

京丹後市の新たな教育・人材育成の在り方に関する検討会

文部科学省初等中等教育局参事官（高等学校担当）付
参事官補佐 白川 由梨

新しい時代の高等学校教育の実現に向けた制度改革等について（概要）

- 「『令和の日本型学校教育』の構築を目指して（答申）」（令和3年1月26日 中央教育審議会）及び「新しい時代の高等学校教育の在り方ワーキンググループ（審議まとめ）」（令和2年11月13日 同ワーキンググループ）等を踏まえて、学校教育法施行規則、高等学校設置基準、高等学校通信教育規程等の一部改正等を行った。

1 各高等学校の特色化・魅力化【学校教育法施行規則・高等学校設置基準の一部改正、通知事項】

◆ 各高等学校に期待される社会的役割等の再定義

- ・ 高等学校の設置者は、高等学校が下記の「三つの方針」を策定する前提として、各高等学校やその立地する市区町村等と連携としつつ、**各高等学校に期待される社会的役割等（いわゆるスクール・ミッション）を再定義**することが望まれる。

◆ 高等学校における「三つの方針」の策定・公表

- ・ 高等学校は、当該学校、全日・定時・通信制の課程又は学科ごとに**以下の方針（いわゆるスクール・ポリシー）を定め、公表するものとする。**
 - (a) 高等学校学習指導要領に定めるところにより**育成を目指す資質・能力に関する方針**
 - (b) **教育課程の編成及び実施に関する方針**
 - (c) **入学者の受け入れに関する方針**

（※）令和4年4月1日から施行（令和6年度末まで経過措置）

◆ 高等学校と関係機関等との連携協力体制の整備

- ・ 高等学校は、当該学校における教育活動その他の学校運営を行うに当たり、**関係機関等との連携協力体制の整備に努める**こととする。

（※）令和4年4月1日から施行

2 普通科改革（高等学校における「普通教育を主とする学科」の弾力化）

【高等学校設置基準・高等学校学習指導要領の一部改正】

- ・ **普通教育を主とする学科として、普通科以外の学科を設置可能とする。**
- ・ 普通科以外の普通教育を主とする学科においては、**各学科の特色等に応じた学校設定教科・科目**を設け、**2単位以上**を全ての生徒に履修させるなどして教育課程を編成することとする。
- ・ 普通教育を主とする学科のうち、学際領域に関する学科及び地域社会に関する学科については以下のとおりとする。
 - (a) **学際領域に関する学科**については**大学等との連携協力体制を整備**するものとする。
 - (b) **地域社会に関する学科**については**地域の行政機関等との連携協力体制を整備**するものとする。
 - (c) 上記2学科は、**関係機関等との連絡調整を行う職員の配置その他の措置を講じるよう努める**ものとする。

（※）令和4年4月1日から施行

3

高等学校通信教育の質保証【高等学校通信教育規程等の一部改正、通知事項】

① 通信制課程における教育課程の編成・実施の適正化

◆ 通信教育実施計画の作成・明示等

・通信教育の方法・内容や一年間の計画等を科目ごとに記載した計画として、通信教育実施計画を策定・明示するものとする。

◆ 同時に面接指導を受ける生徒数

・同時に面接指導を受ける生徒数は、少人数とすることを基本としつつ、40人を超えないものであることを明確化。

◆ 関係法令の趣旨明確化

- ・試験は、添削指導・面接指導との関連を図り、その内容及び時期を適切に定めなければならないこととする。
- ・多様なメディアを利用して行う学習により面接指導等の時間数を免除する場合には、本来行われるべき学習の量・質を低下させることがないよう、免除する時間数に応じて報告課題等の作成を求めるとともに、多面的・多角的な評価を行うなど学習評価の充実を図るものとする。
- ・集中スクーリングは、多くとも1日8単位時間までを目安に設定するなど、生徒・教師の健康面・指導面の効果を考慮して適切に定めることとする。

② サテライト施設の教育水準の確保

◆ サテライト施設の法的位置付けの明確化

・通信制高校の展開するサテライト施設について、最低限の教育水準を確保するため、「通信教育連携協力施設」として法的位置付けを明確化。

◆ 高等学校教育を担うに相応しい教育水準の確保

- ・面接指導等の実施に連携協力するサテライト施設は、本校の基準に照らして、適切な編制・施設・設備等を備えなければならないものとする。
- ・所轄の都道府県の区域外に所在するサテライト施設は、その所在地の都道府県知事が定める設置認可基準を参酌して、適切性を確認する。

③ 主体的な学校運営改善の徹底

◆ サテライト施設を含めた学校評価の充実

・通信制高校の展開するサテライト施設について、自己評価の実施・公表を行うとともに、関係者評価の実施・公表を努めるものとする。

◆ 教育活動等の情報の公表

・公的な教育機関として社会への説明責任を果たし、外部から適切な評価を受けながら教育水準の向上を図る観点から、サテライト施設ごとに、生徒数・教職員数、教育課程、施設・設備等の教育環境、卒業後の進路状況など、教育活動等の情報を公表するものとする。

(※) 令和4年4月1日から施行

4

多様な学習ニーズへの対応【学校教育法施行規則、高等学校単位制教育規程等の一部改正】

◆ **学校間連携制度の対象拡大** ・学校間連携制度の対象について総合的な学習の時間（総合的な探究の時間）を加える。

◆ **少年院の矯正教育の単位認定** ・少年院の矯正教育で、高等学校学習指導要領に準じて行うものについて、単位認定を可能とする。

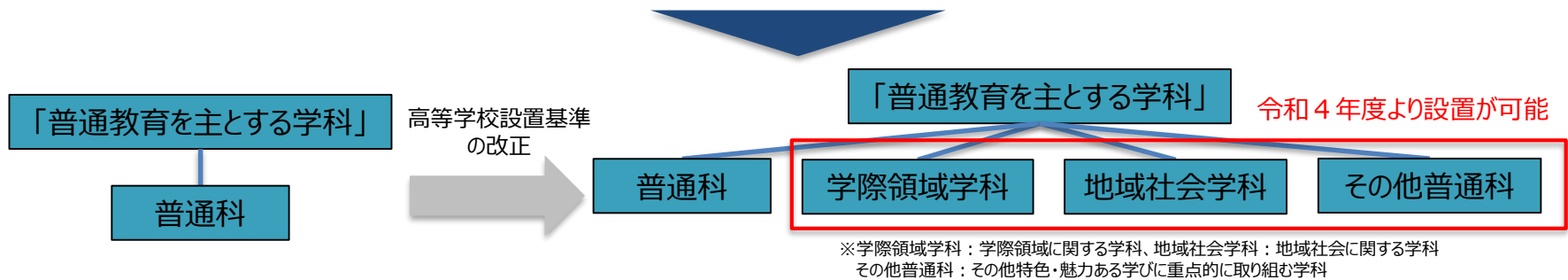
(※) 令和3年4月1日から施行予定

◆ **単位制課程における教育課程の情報の公表** ・単位制高等学校の設置者は、その教育課程に関する情報を明示するものとする。

(※) 令和4年4月1日から施行

「普通教育を主とする学科」の弾力化－普通科改革の意義・概要

- 普通科には高校生の約7割が在籍する一方で、**生徒の能力・適性や興味・関心等を踏まえた学びの実現に課題がある**との指摘もなされており、「普通」の名称から**一斉的・画一的な学びの印象を持たれやすい**ところ、普通科においても、生徒や地域の実情に応じた**特色・魅力ある教育を実現**する。
- 普通科において特色・魅力ある教育を行うにあたって、従来の文系・理系の類型分けを普遍的なものとして位置付けるのではなく、総合的な探究の時間を軸として、**生徒が社会の持続的発展に寄与するために必要な資質・能力を育成するための多様な分野の学びに接することができるようにする**。



学際領域学科

現代的な諸課題のうち、**SDGsの実現**や**Society5.0の到来に伴う諸課題**に対応するために、学際的・複合的な学問分野や新たな学問領域に即した最先端の**特色・魅力ある学び**に重点的に取り組む学科

地域社会学科

現代的な諸課題のうち、高等学校が立地する地元自治体を中心とする**地域社会が抱える諸課題**に対応し、地域や社会の将来を担う人材の育成を図るために、現在及び将来の地域社会が有する課題や魅力に着目した**実践的な特色・魅力ある学び**に重点的に取り組む学科

その他普通科

その他普通教育として求められる教育内容であって当該高等学校のスクール・ミッションに基づく**特色・魅力ある学び**に重点的に取り組む学科

「普通教育を主とする学科」の弾力化 – 新学科の要件

- (1) **各学科の特色等に応じた学校設定教科・科目**を設け、当該学校設定教科・科目（**2単位以上**）及び総合的な探究の時間を**合計6単位以上、全ての生徒に対し、原則として各年次にわたって**、履修させること
- (2) 学校設定教科・科目と総合的な探究の時間について、**相互の関連を図り、系統的、発展的な指導を行う**ことに特に意を用いること
- (3) 学際領域学科においては、**大学等の連携協力体制を整備**すること
- (4) 地域社会学科においては、**地域の行政機関等との連携協力体制を整備**すること
- (5) 学際領域学科及び地域社会学科においては、**関係機関等との連携を行う職員の配置**その他の措置を講じるよう努めること

新たな学科において考えられる学校設定科目の例

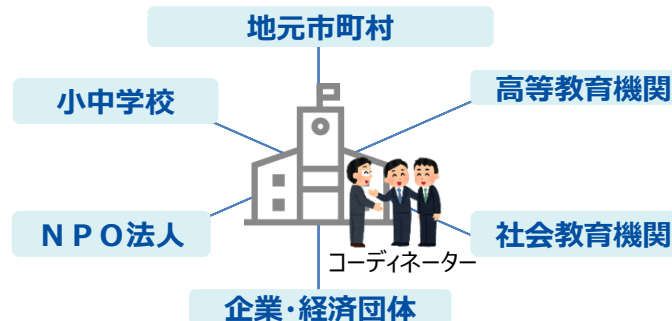
社会科学 研究	社会科学の考え方をを用いて現在の経済活動を読み解き、現代社会の特質や課題について認識を深め、社会課題の解決策を提案
クリティカル シンキング	文脈の中で抽象語を理解し、複数の立場から論じられている文章の読解等を通して、多面的・総合的に考える能力や自分の考えを適切に表現する能力を育成
グローバル 探究	データに基づく論理的思考や調査手法等の研究手法を学ぶとともに、グローバルな社会課題についてSDGsの達成に向けた研究活動を実施
地域学	フィールドワーク等を通して、地域の現状・歴史を知り、地域の課題やニーズを把握。収集した情報を整理・活用し、課題を明確化し、行政・地域・福祉施設等との協議を通して、具体的な解決策を提案。こうした学習の課程においてコミュニケーション能力や交渉力を育成

連携協力体制

<学際領域学科の例>



<地域社会学科の例>



新学科の概要

「**グローバル人材**」の育成を目指し、「**仲間と共に、大人と共に、地域と共に、意志ある未来を創る**」をスローガンに、諸課題が複雑に絡み合う地域の現場をフィールドに、「主体性」、「協働性」、「探究性」、「社会性」を磨いていくため、**地域でのより実践的・実地的な学びを展開する新学科を導入**

＜現状＞ 普通科2学級、 → ＜改編後＞ **地域共創科1学級**、普通科1学級（1年次は共通カリキュラムを履修、2年次から学科が分かれる）

地域共創科（新学科）におけるカリキュラムイメージ

「地域未来共創」や「地域未来創造」を通じた実践的・探究的な学習

2年次に「地域未来共創」、3年次に「グローバル未来共創」を週6時間分設定し、地域課題をテーマとした探究学習を実施。

学年	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30	31	
1年	現代の国語	言語文化	公民	数学I	数学A	物理基礎	化学基礎	生物基礎	体育	保健	英語コミュニケーションI	論理・表現I	家庭基礎	総合的な学習の時間	H	R																
2年	論理国語	古典探究	地理総合	歴史総合	数学II	地域未来共創	地域未来共創	地域未来共創	地域未来共創	地域未来共創	地域未来共創	地域未来共創	地域未来共創	地域未来共創	地域未来共創	地域未来共創	地域未来共創	地域未来共創	地域未来共創	地域未来共創	地域未来共創	地域未来共創	地域未来共創	地域未来共創	地域未来共創	地域未来共創	地域未来共創	地域未来共創	地域未来共創	地域未来共創	地域未来共創	地域未来共創
3年	論理国語	古典探究	地理探究	日本史探究	世界史探究	数学探究A	グローバル未来共創	グローバル未来共創	グローバル未来共創	グローバル未来共創	グローバル未来共創	グローバル未来共創	グローバル未来共創	グローバル未来共創	グローバル未来共創	グローバル未来共創	グローバル未来共創	グローバル未来共創	グローバル未来共創	グローバル未来共創	グローバル未来共創	グローバル未来共創	グローバル未来共創	グローバル未来共創	グローバル未来共創	グローバル未来共創	グローバル未来共創	グローバル未来共創	グローバル未来共創	グローバル未来共創	グローバル未来共創	グローバル未来共創

■ 学問的・探究的な学習の時間 ■ 実践的・探究的な学習の時間

「地域共創DAY」の設置

1日をつかって地域に飛び出し、地域のリアルな現場で実践的・探究的に学ぶ時間をカリキュラムに設けることとしており、隠岐島前地域ならではの伝統文化の体験や様々な事業所での探究的実践など、地域を共創する一人として実社会の中で学ぶ。その際、しっかりと振り返りの機会を設けることで、より主体的に、より自律的に考え、行動することができるように高校・隠岐國学習センターによるサポートも行われる。



地域との連携体制

・「地域・社会に開かれたカリキュラムマネジメント」を深化・発展させるための**コンソーシアムを構築**（構成機関：島根県教育委員会、隠岐島前高等学校、島根県立大学、島前ふるさと魅力化財団、隠岐國学習センター、地域・魅力化プラットフォーム、海士町、海士町教育委員会、西ノ島町、西ノ島町教育委員会、知夫村、知夫村教育委員会）

・地域協働学習を支援するために、校内に「**コーディネーター**」を配置し、地域課題解決型探究学習の授業等に参画

新学科の概要

地域や社会の未来を担うリーダーの育成を図るために、高等学校が立地する地元自治体を中心とする地域社会から得られる様々な分野の知見を学ぶことにより教養を深め、現在及び未来の地域社会が有する課題や魅力に着目した科学的・実践的な学びに重点的に取り組む学科を導入

<現状> 普通科2学級、商業科1学級 → <改編後> **地域科学科2学級**、商業科1学級

地域科学科（新学科）におけるカリキュラムイメージ

地域を科学し、未来を拓く教養を身に付けるプログラム

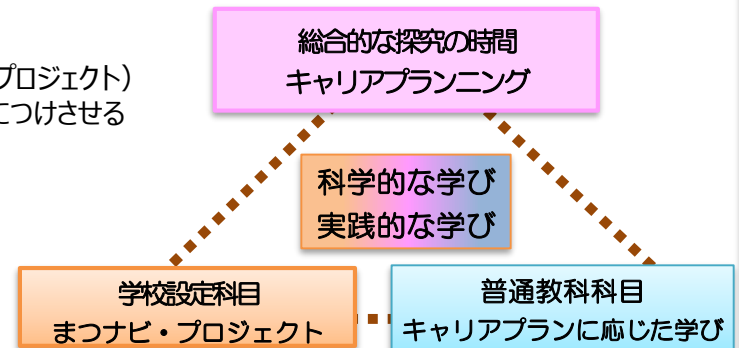
キャリアプランニングに応じた普通教科科目の学びと地域課題解決型学習（まつナビ・プロジェクト）により、社会の変化に対応できる「課題解決能力」と「ふるさとを大切にする姿勢」を身につけさせることで、キャリア形成（希望進路実現）を図る

学校の特徴等に応じた学校設定科目「まつナビ・プロジェクト」

- ・第1学年（プレまつナビ）：基礎的知識・技能等の習得、課題研究テーマの設定
- ・第2学年（まつナビ）：校外外で課題研究の計画的実施、解決策等を提言
- ・第3学年（ポストまつナビ）：個人研究と、地元小中学生に研究成果を報告
（研究テーマ例：「空き家を利用して便利で賑やかな町にしよう」、「タータン×松浦の魅力」、「農業っていいね!!」）

<従来の普通科との違い>

- ・普通教育に基盤を置きながら、地域社会の諸課題に積極的に関わり、「課題発見力」「論理的思考力」「コミュニケーション力」などの資質・能力を育成するための「科学的な学び」「実践的な学び」に重点を置く
- ・総合的な探究の時間及び学校設定教科・科目において、社会的課題や地域が有する魅力と自分との関わりについて領域横断的に学習

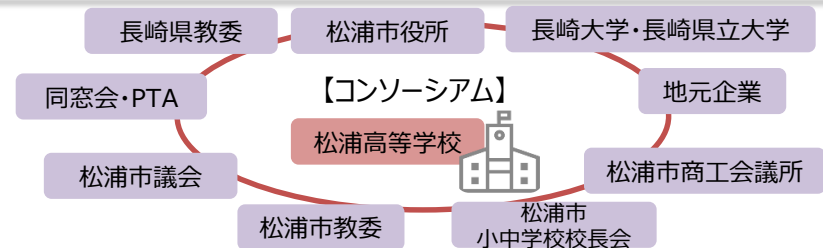


令和2年度
課題研究
『農業って
いいね!!』

地域との連携体制

高校生と課題解決のマッチングを効果的に行うための**コンソーシアムを構築**

- ・地域との協働による活動を学校の教育活動に明確化
- ・専門人材の配置等、校内体制の構築
- ・学校と地域をつなぐコーディネーターを指定
- ・将来の地域ビジョン・求める人材像を共有し、地域協働に資する学習カリキュラムを開発 等



岩手県立大槌高等学校が取り組む新しい教育への挑戦

※岩手県教育委員会作成資料

事業構想

大槌高校魅力化コンセプト「大海を航る大槌を持とう！」を全ての生徒が実現し、「学ぶことが楽しい」「もっと学びたい」と思う魅力的な学びの環境を地域と共に創ります。

事業の目的
必要性

【生徒の視点】多様な能力・適性、興味関心を持った生徒に対しては一斉授業では対応できず**多様な学びを保証する個別最適化されたカリキュラムや教育方法の検討**が必要となっている。

【地域の視点】東日本大震災津波により甚大な被害を受けた大槌町は真の復興を遂げるため、**復興を担う人材の育成、地域・社会教育の拠点としての高校の重要性が増している。**

培う
資質能力
(仮)

自律

- ・ジブンゴト（当事者意識）
- ・課題設定力
- ・自己調整（学び続ける力）

協働

- ・共感・相互理解
- ・OneTeam(地域の中での役割)
- ・リーダーシップ

創造

- ・レジリエンス（逆境）
- ・価値創造（半径50cm革命）
- ・チャレンジ

※詳細は地域やコンソーシアムでの議論を経て決定

特色・魅力ある教育の概要

①生徒自らが選択・調整できる学び

生徒が学習する科目を自己決定し学ぶ意義や意味を見出す支援を行う
例：選択制の地域と協働した探究科目を新たに設置（家庭・音楽等）

②地域社会を舞台に学ぶ実践的な問いからはじまる探究

生徒一人ひとりの興味関心や問いからはじまる探究的な学びを支援
例：総合的な探究の時間の充実（5単位）、
5教科で本格実施する学校設定教科地域みらい学（12単位）

③放課後等の学校外に広がる探究的な学び

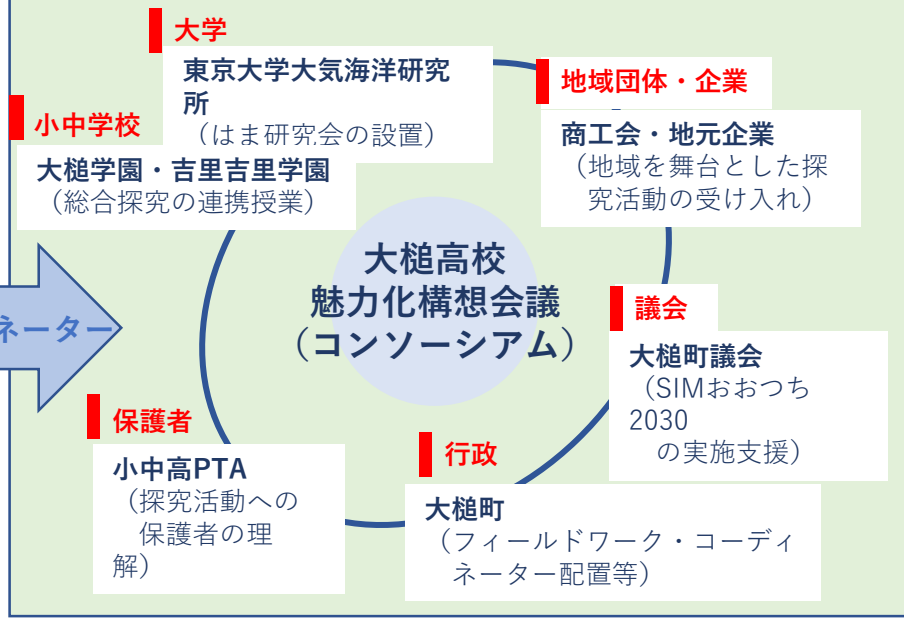
東大海洋研や地域の団体や事業所等、放課後の居場所と連携した学び
例：東大海洋研と連携した「はま研究会」、マイプロジェクト等

④個別最適なりメディアル教育の実践

多様な能力や適性を持った生徒の学習進度に応じて、ICT等の新たな教育方法を活用した学び直しを実践する
例：ICTドリルを活用した個別最適学習の時間確保

コーディネーター

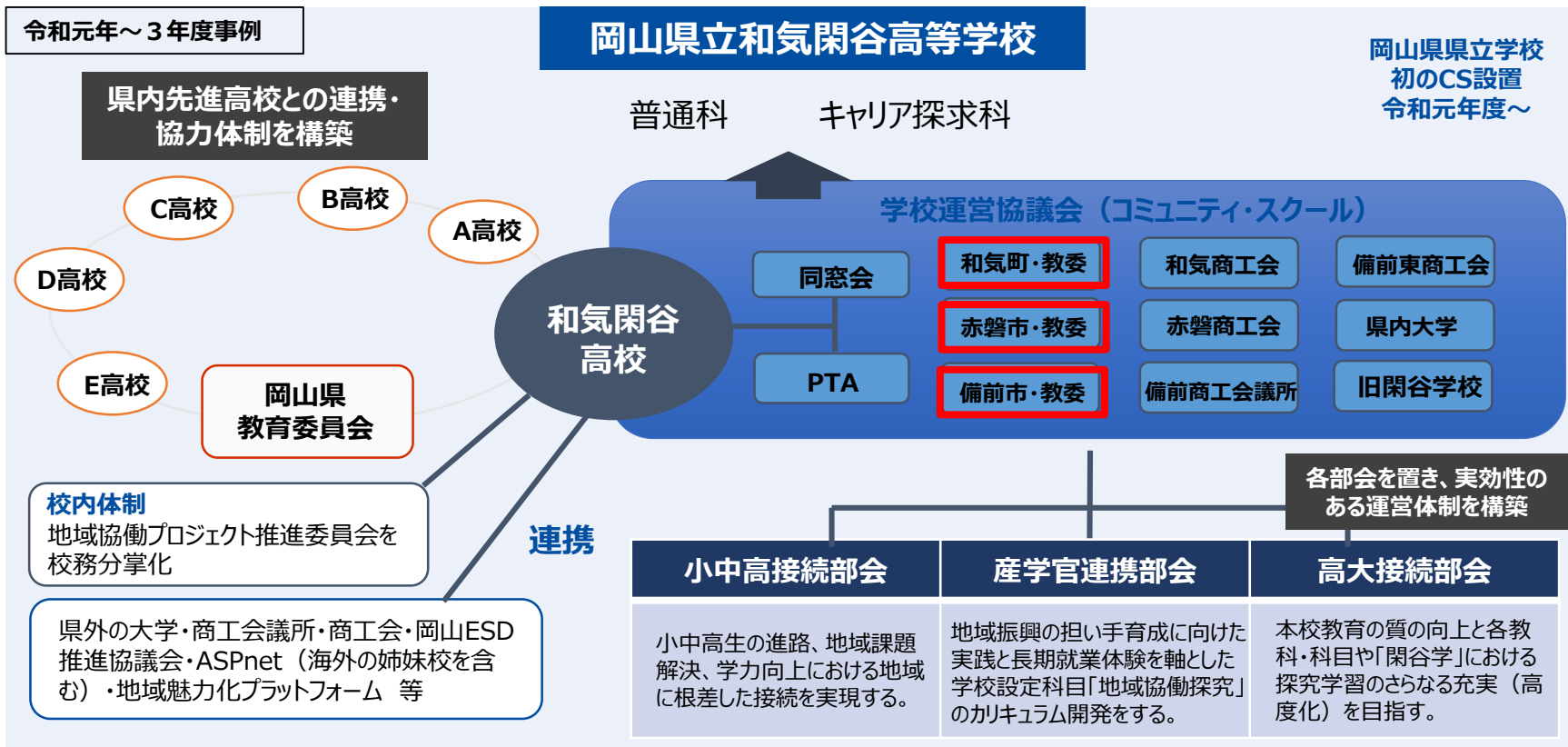
関係機関との連携・協働体制の構築方法



コーディネーターの
配置

大槌町・認定NPO法人カタリバと連携し、高校へ派遣。新学科（地域社会学科：仮称）移行を目指すコンソーシアム体制の支援、特色魅力ある教育課程・教育方法の実現に向けたカリキュラム・マネジメント、探究教科のカリキュラム策定支援等を担当。

【事例】高等学校における学校運営協議会の体制について（岡山県立和気閑谷高校）



学校運営協議会の議題 生徒の代表が学校運営協議会に参加して意見を述べる等の主体的・対話的な取組も行い、生徒が主役となる学校づくりが進んでいる

第1回

- (1) 会長・副会長の選出
- (2) 学校経営計画について（承認）
- (3) 予算について（承認）
- (4) 協議事項
「スクールポリシーの策定について」

第2回

- (1) 委員による授業見学
「一人一台端末活用場面」英語 I・日本史B
- (2) 協議事項
「学校経営計画の中間評価について」
重点項目「①学びの質の更なる向上、②地域との協働体制づくり、③生徒募集活動の充実」

第3回

- 協議事項
- (1) 「学校関係者評価」
 - (2) 「次年度の学校経営計画と予算について」
【グループ協議】

【事例】CSによる学校と地域が連携・協働した教育活動の実施（大分県立玖珠美山高校）

大分県立玖珠美山高校では、学校運営協議会の場で学校運営上の成果と課題を共有し、意見交換することで、委員の提案を取り入れながら、総合的な探究の時間や様々なプロジェクトにおいて、地域と連携・協働した取組を実施

背景・取組概要

高校が所在している地域からの入学率が高いなど、地域とのつながりを作りやすい環境ではあったものの、**地域側から見て、「県立学校は地域の学校」という意識が低く、連携・協働が進まなかったため、平成27年度からコミュニティ・スクールを導入**。地域住民や保護者の声が学校運営に反映される仕組みが整備されることで、委員からの提案をもとにして、地域に根ざした多様な教育活動や地域の課題解決に向けたプロジェクトを実施

工夫・ポイント

- ◆ 学校運営協議会にて、**学校側の課題を提示し、委員と意見交換**することで、**教育活動に対して様々なアイデアや協力**が得られる
- ◆ 学校運営協議会の意見をそのまま年度内に実現することも多く、**地域とともにある学校づくりのサイクル**が生まれている

特徴的な活動

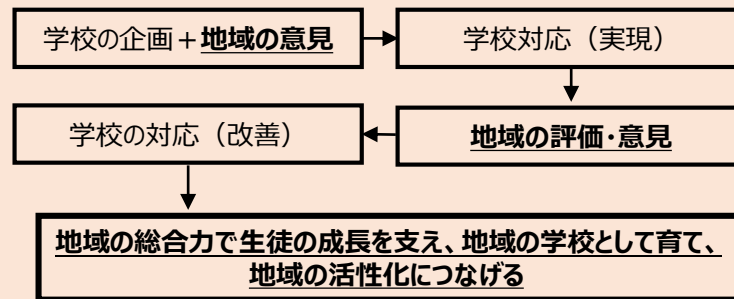
- ◆ 地域の**農業、畜産、林業などの地域資源**や**地域の小中学校、大学、商工会など、多様なつながり**を生かした**教育活動**
- ◆ 地域とのつながりができることにより、**生徒が意欲的に地域貢献を行うようになる**など、**地域の課題を解決するという主体性**が育まれている

関係者の声

（学校）「学校運営協議会は**地域社会を学校に引き込み、学校が地域社会に出ていくための橋渡しの役割**を果たしている」

（生徒）「委員の方の協力のおかげで、**校内だけではできなかった連携や研究を進められるようになった**」

学校運営協議会を基盤とした地域とともにある学校づくりのサイクル



「玖珠の匠・達人に聞く」
講師として多様な地域人材が参画



「くすまち大麦プロジェクト」
地域資源（玖珠町産大麦）を活用し、
商品開発から販売、PR活動まで行う

都道府県立高等学校と市区町村立中学校との連携の例

	設置者	学校名	取組の特色
北海道	北海道	羅臼高等学校	<ul style="list-style-type: none"> 学校設定科目である「知床学」（自然環境科目）の中・高一貫教育の実施 ユネスコスクール共通発表会の実施 教科、部活動における連携事業の実施
	羅臼町	知床未来中学校	
山形県	山形県	新庄南高等学校 金山校	<p>「気魄 節度 体力」の校訓のもと、様々な講座で地域の人々から学ぶ科目「金山タイム」や、地元中学校との合同インターンシップ、卒業研究などにより、地域の人々との関わりを通して、生きて働く知識と技能を習得し、地域の未来に貢献できる人を育成</p>
	金山町	金山中学校	
東京都	東京都	芝商業高等学校	<ul style="list-style-type: none"> 「ビジネス教育を核とした教育活動を通して、グローバル化する社会環境の中で自立することができる人材を育成 選択教科や長期休業中の集中講座において、中高接続プログラムを実施し、芝商業高校進学希望者に対して、発展的内容のビジネス教育や情報教育に係る授業を実施 出前授業の実施、文化祭や体育祭への双方の参加、生徒会同士の交流や部活動の合同練習、教職員の連携・交流などを推進
	北区	飛鳥中学校 十条富士見中学校	
広島県	広島県	賀茂北高等学校	<ul style="list-style-type: none"> 地域とともに、夢と創造に満ちた教育を推進し、高いコミュニケーション力をもち、社会で生き抜く力を身に付けた生徒の育成を目指す。 「総合的な探究の時間」において、地域と協働し、社会人・職業人として自立していくために必要な資質・能力を身に付けることをねらいとした学習活動や地域活性化策の提案に取り組み、「中高合同実践発表会」を実施。 連携中学校と合同で、芸術鑑賞会、体育大会などを実施。 高等学校教員が中学校の国語、数学、英語の一部の授業に参加して、中学校教員とチームティーチングを実施。
	東広島市	豊栄中学校	